

## 菅内閣誕生

お彼岸の入りを明日19日に控えて厳しい残暑もようやく和らぎ、朝晩は秋の訪れを肌で感じるようになりました。新型コロナウイルス感染症の再拡大は、一時期に比べて減少傾向にあるものの、まだまだ予断を許さない状況にあります。これから冬場にかけて、季節性インフルエンザウイルス感染症の流行も心配されます。新型コロナウイルス感染症との同時流行も懸念され、感染症の予防対策を徹底するとともに、医療提供体制の整備・充実を一層進めていかなければなりません。

さて、安倍総理大臣の辞意表明を受けて行われた自民党総裁選挙は、14日の両院議員総会にて投開票が行われ、菅義偉氏が石破茂氏、岸田文雄氏の両候補を押さえて当選し、新総裁に選出されました。さらに、16日に召集された臨時国会での衆参両院の首班指名選挙において、第99代内閣総理大臣に指名されました。

菅新総理・総裁は、15日に自民党の役員人事を行い、二階俊博幹事長と森山裕国会対策委員長を再任し、新たに、総務会長に佐藤勉氏、政調会長に下村博文氏、選挙対策委員長に山口泰明氏を選任しました。

16日に発足した菅新内閣、その顔ぶれは官房長官に加藤勝信前厚生労働大臣を起用し、加藤大臣の後任には厚生労働大臣経験のある田村憲久氏を任命しました。麻生太郎副総理兼財務大臣、西村康稔経済再生担当大臣等の8閣僚が再任されました。また、加藤官房長官をはじめ、3閣僚が担当を代えて閣内に留まり、田村厚生労働大臣をはじめ4人が再入閣となりました。新入閣は、新設した大阪万博担当大臣の井上信治氏はじめ5人となりました。

前閣僚の半数以上が閣内に留まり、菅新総理の強調した安倍政権の継続性を保ちつつ、新型コロナウイルス感染症対策や停滞する経済の活性化等、喫緊の課題に確実に取り組む姿勢を改めて示すものとなりました。また、行政改革・規制改革担当大臣に河野太郎前防衛大臣、デジタル改革担当大臣に平井卓也元IT担当大臣を起用する等、規制改革の実行やデジタル化の推進を力強く打ち出すものともなっています。

新総理の安定した政権運営に期待が寄せられる一方、衆議院解散・総選挙実施の可能性も囁かれています。もちろん衆議院解散は、総理大臣の専権事項ですので、菅新総理の思いを推し量ることはできませんが、今後の政局は大いに注目されるところです。